

奈良県の通級の先生と共に

子どもの学びに活かす ハンドブック



奈良県立教育研究所

はじめに

我が国では、障害のある子どもとない子どもが、可能な限り共に学ぶことを追求するとともに、障害のある子どもの自立と社会参加を見据えて、一人一人の教育的ニーズに応じた多様な柔軟な仕組みを整備することを進めています。そのためには、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった「多様な学びの場」を充実させ、一人一人の学びを保障していく必要があります。

そこで、奈良県では、平成29年度「自閉症・情緒障害通級指導教室設置モデル事業」をスタートさせました。子どもたちの教育的ニーズに合った学びの場としての通級指導教室を一層充実させ、通級担当教員の更なる専門性の向上を目指し取り組んできました。2年間のモデル事業を進めていく中で、通級による指導に対するニーズや期待の高まりが明らかになったことから、この度、「子どもの学びに活かすハンドブック～奈良県の通級の先生と共に～」を作成しました。通級による指導をより効果的なものにするとともに、その成果を通常の学級での授業や生活に活かすことができるよう、通級担当教員だけでなく、通常の学級担任、特別支援教育コーディネーターにも活用していただきたいと考えています。また、通常の学級には、通級による指導を受けてはいませんが支援や配慮を必要としている子どもたちも在籍しています。一人一人の子どもの教育的ニーズに気づき、支えるためにも多くの先生方に参考にしていただけると幸いです。

最後に、本ガイドブックの作成において、日々実践を重ねてこられた通級の先生方に委員として、様々な実践事例やコラムを御提供いただくなど多大な御協力をいただいたことに対し、深く感謝申し上げます。

平成31年3月

奈良県立教育研究所

副所長 石井 宏典

目 次

理論編

- 1-1 通級とは (P1～5) 通級による指導とは
通級による指導の対象となる児童生徒は
教育課程の編成
授業時数 指導内容
指導に当たって
- 1-2 通級担当教員の役割 (P6)
- 1-3 連携の大切さ (P7～10) 特別支援教育コーディネーターとの連携
通常の学級担任との連携
保護者との連携
関係機関との連携
- 1-4 通級を設置するに当たって (P11) 市町村の教育委員会として留意すること
設置校として配慮すること

実践編

事例番号

- 2-1-1 読み書き計算 ひらがなが読めるようになったよ
- 2-1-2 読み書き計算 漢字を覚えられたよ
- 2-1-3 読み書き計算 これならできる！
- 2-1-4 読み書き計算 英単語を覚えられるようになったよ
- 2-1-5 読み書き計算 こんな勉強方法があるんだ
- 2-2-1 構音 力行がうまくお話できるようになったよ
- 2-2-2 構音 サ行がうまくお話できるようになったよ
- 2-2-3 構音 大きな声ではっきり話せるようになったよ
- 2-2-4 構音 自信をもって話せるようになったよ
- 2-3-1 感覚 うまく体を使えるようになったよ
- 2-3-2 感覚 うまく手先を使えるようになったよ
- 2-3-3 感覚 触って、モデルのポーズをつくろう
- 2-3-4 感覚 じっくり考えて行動できるようになったよ
- 2-4-1 自己理解・社会性 自分の得意なことや苦手なことが分かったよ
- 2-4-2 自己理解・社会性 友だちに「遊ぼう」と言ってみよう
- 2-4-3 自己理解・社会性 安心できる友だちと居場所が見付かったよ
- 2-4-4 自己理解・社会性 会話で困ったときどうしよう～〔難聴理解かるた〕を使って～
- 2-4-5 自己理解・社会性 みんなで話そう 吃音のこと
- 2-5-1 理解啓発 学級で話をするとき

資料編

- 3-1 教材・教具等一覧
- 3-2 シートの具体例

